

リサイクルセンター整備基本計画策定委託について

1. リサイクルセンターの現状と課題

1) 耐用年数と稼働年数

- ・全国のリサイクル・資源化施設の平均耐用年数は19.1年
- ・ビン・缶・ペットボトル等減容保管施設、管理棟は既に稼働年数が耐用年数を超過

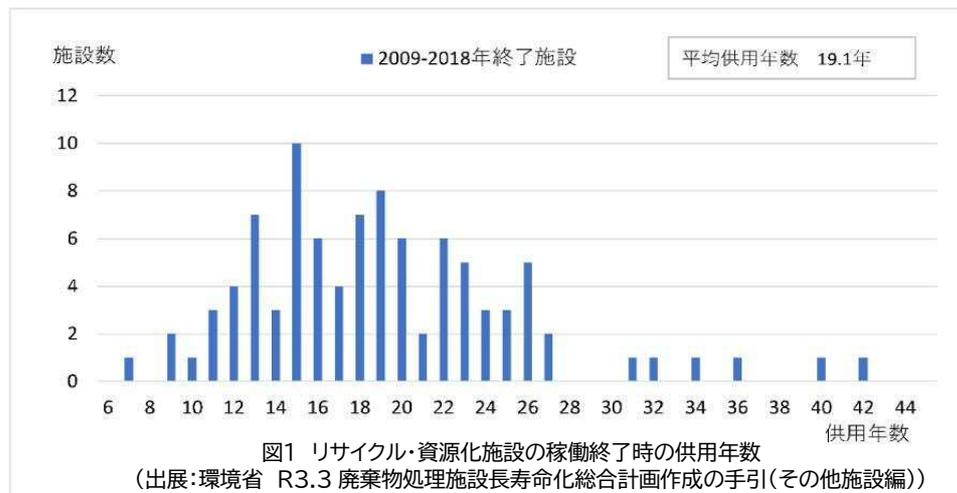


表1 恵庭市のリサイクル施設の稼働年数(R6.3 現在)

	供用開始年	稼働年数(R6.3 現在)
ビン・缶・ペットボトル等減容保管施設	H12.4	24年
プラスチック容器包装減容保管施設	H19.4	17年
ストックヤード	H29.3	7年
管理棟(旧焼却施設)	S54.4	45年

2) 稼働状況

プラスチック容器包装減容保管施設は、施設の停止を伴う故障が頻発しており、他の廃棄物処理施設の負荷が増大している。

表2 設備故障に伴う停止状況(令和元年度以降)

年度	停止施設	停止理由	停止期間	代替施設	処理量(t)
R2	プラスチック容器包装減容保管施設	圧縮機破損	R2.11.2~R2.11.20 (19日間)	焼却施設	41.23
R4	プラスチック容器包装減容保管施設	コンベヤベルト破損	R4.8.1~R4.9.22 (53日間)能力半減含む	ごみ処理場	65.23
R4	プラスチック容器包装減容保管施設	圧縮機ベール開閉扉 電磁弁故障	R4.12.8~R5.1.20 (44日間)	焼却施設	12.51
				ごみ処理場	92.33
R5	プラスチック容器包装減容保管施設	破袋機	R5.11.29~R5.12.7 (9日間)	焼却施設	13.3
				ごみ処理場	2.06

3) 処理状況

- ・各施設における搬入量は年々減少傾向
- ・種類別では全体量のうち、ペットボトルの割合が増加傾向
- ・プラ容器包装減容保管施設では、曜日によって処理能力を超過している

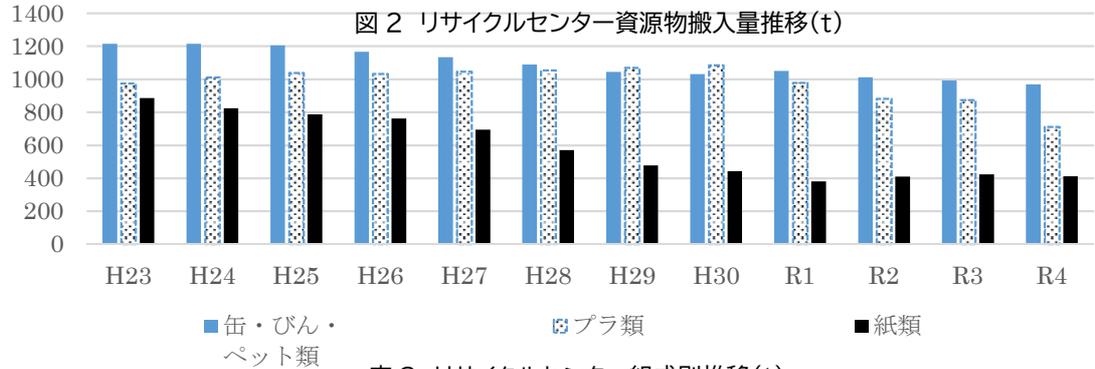
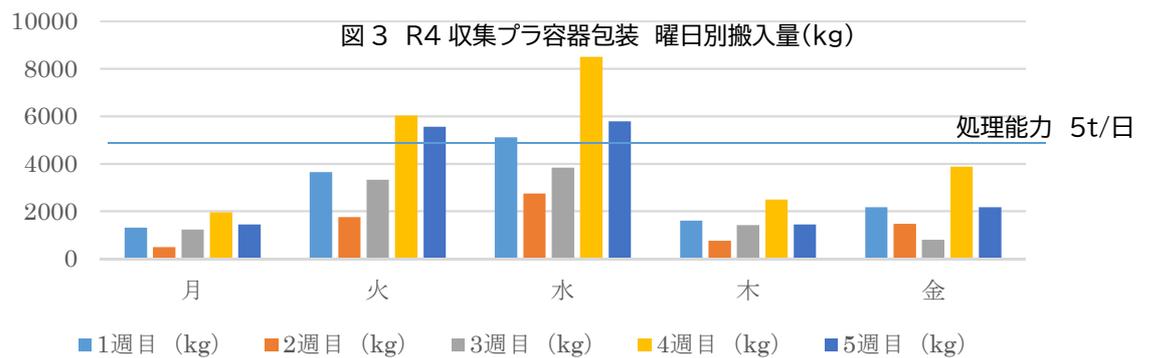


表 3 リサイクルセンター組成別推移(t)

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
スチール缶	130.92	102.62	91.16	81.68	76.56	71.23	65.41	73.66	72.40	65.15	
アルミ缶	109.74	116.79	109.73	106.99	109.13	92.90	91.21	105.72	101.50	100.09	
ダンボール	320.34	324.00	304.20	265.94	233.69	212.14	177.36	198.92	190.22	189.22	
紙パック	22.85	20.90	20.01	16.96	16.16	13.81	13.01	13.84	11.71	11.03	
シュレッダー	2.84	4.47	3.18	3.42	3.08	3.32	3.15	4.68	3.79	3.18	
新聞紙	285.28	271.94	244.57	208.39	181.20	155.84	145.95	128.40	139.17	112.37	
雑誌・本	194.51	176.31	147.78	107.30	84.36	74.92	66.98	68.41	63.76	70.16	
ペットボトル	251.85	242.77	232.12	234.34	227.84	225.37	250.23	245.14	261.59	260.37	
ガラスびん	無色	161.96	158.88	156.20	146.47	139.88	138.99	130.48	131.10	102.85	119.89
	茶色	191.49	192.12	192.18	179.17	173.37	169.71	157.79	145.79	139.19	134.17
	その他	96.56	111.38	93.78	91.61	84.52	91.57	73.04	80.87	73.16	63.06
プラ容器	963.26	988.48	1,012.45	1,020.75	1,006.28	1,043.68	972.69	891.10	878.39	743.74	



2. 基本計画策定について

【目的】 施設の老朽化、ごみ量・ごみ質等の変化に対応するため、施設の改修または更新における課題、事業手法、財源などについて検討を行い、令和 6 年度中に今後の施設整備の方向性を定める。

- 【検討内容】
- ・処理能力等の基本条件の検討
 - ・施設整備手法の比較検討(改修、新施設)
 - ・事業方式の検討
 - ・財源計画の検討